

令和3年度第1回 府中市地域公共交通協議会 会議録（要旨）

■開催日時 令和3年7月2日（金） 午後2時から午後3時15分まで

■開催場所 中央文化センター4階 第1講堂

■出席委員等 18名（名簿順）

森本章倫委員、岡村敏之委員、榎本聡委員、篠田貴宏氏（委員予定者）、早田俊介委員、小泉裕樹委員、平野景一委員、小泉伸介委員、谷口信夫委員（代理：中川拳太氏）、飯箸俊一委員（代理：土井仁氏）、清水直樹委員、堀木智浩委員、小町篠委員、野田和彦委員、河井文委員、北村のぞみ委員、林田あゆみ委員、松村秀行委員

■欠席委員 2名（名簿順）

齊原潤委員、小宅肇委員

■事務局

高橋都市整備部次長兼計画課長、松本計画課交通企画担当主幹、國分計画課長補佐、浅見計画課交通企画担当主査、荒井計画課事務職員

■傍聴者 1名

■議事次第

1 開会

2 議題

(1) 報告事項

ア 市民アンケートの調査結果について

イ 地域公共交通の課題の抽出に向けた今後の取組等について

3 その他

4 閉会

■会議概要

○事務局

定刻ですので、ただいまから、令和3年度第1回府中市地域公共交通協議会を開会いたします。まずは、都市整備部次長の高橋よりご挨拶をさせていただきます。

○都市整備部次長

都市整備部次長の高橋でございます。本日はお忙しい中、またお足元の悪い中お集まりいただき、誠にありがとうございます。さて、本日は、本年度第1回の協議会となりますが、地域公共交通計画の策定に向けて、委員の皆様より貴重なご意見をいただければと考えています。どうぞよろしく申し上げます。

○事務局

なお、人事異動により一部の委員について変更がありましたので、新任の委員より自己紹介をお願いいたします。

○事務局

(新任委員及び委員予定者の自己紹介)

○事務局

続きまして、事務局の自己紹介をさせていただきます。

○事務局

(事務局職員の自己紹介)

○事務局

以降の議事進行につきましては、会長である森本委員にお願いしたいと思います。それでは、会長よろしく申し上げます。

○会長

ただいまから、令和3年度第1回の府中市地域公共交通協議会を開会いたします。限られた時間ではありますが、活発なご議論をよろしく申し上げます。

まず、本日の委員の出席状況について、事務局から報告をお願いします。

○事務局

(齊原委員及び小宅委員の欠席並びに谷口委員の代理として国土交通省関東運輸局東京運輸支局運輸企画専門官(総務企画担当)の中川氏、飯箸委員の代理として東京都都市整備局都市基盤部交通企画課統括課長代理の土井氏が出席する旨報告)

○会長

続きまして、傍聴者の有無について事務局から報告をお願いします。

○事務局

(傍聴の申込みを事前に受けているが、現時点では来場していない旨報告)

○会長

傍聴者の方が来場された際は、傍聴を許可してよろしいでしょうか。

(異議なし)

○会長

続いて、議題に入りたいと思います。報告事項アの「市民アンケートの調査結果について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局

(資料1に基づき詳細説明)

○会長

ありがとうございました。

それでは委員の皆様から、ご質問やご意見をお受けしたいと思います。

○委員

調査対象者3,000人の男女別の内訳を教えてください。回答者の男女内訳は、資料に記載されていますが、調査対象者の内訳がないため質問です。

○事務局

調査対象者3,000人の男女割合については、令和2年11月時点の府中市全体の人口の男女比率と同じ割合となるように設定しており、男性が50.2%、女性が49.8%となっています。よって、調査対象者としては男性の数が多く、回答者としては女性の数が多い結果となっています。

○会長

実態を調査したとのことですが、コロナ禍における調査結果ですので、多少はバイアスがかかっているとご理解いただければと思います。あるデータでは、都内の公共交通利用者は、通常時の2割から3割程度少なくなっているという実態があります。なお、自動車交通はほとんど変わりませんが、歩行者・自転車は若干伸びているようです。今後コロナが収束に向かえば、公共交通の利用者数も少しずつ戻っていくのではないかと想定されます。

その他ご質問やご意見はありますか。

副会長、何か補足はありますか。

○副会長

特にありません。

○会長

それでは、報告事項イの「地域公共交通の課題の抽出に向けた今後の取組等について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局

(資料2に基づき詳細説明)

※なお、資料 8 ページに記載のある公共交通利用者アンケートの実施日が、7月9日（金）から7月16日（金）に変更予定であると報告あり。

○会長

ありがとうございました。

ご質問やご意見をお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員

何点かありますので順番に申し上げます。

はじめに、資料 2 の 1 ページに「公共交通の強み」として 2 点記載されており、2 つ目に「府中駅を起点とする路線バスが高頻度である」とあります。確かに、市の北部に向けての路線バスは、路線・本数とも非常に多く充実していると思いますが、市の南部に対しては、路線バスがあまりなく、ちゅうバスも 30 分に 1 本ですので、バスが充実しているとは言いがたいと認識しています。ここはもう少し表現を変えていただく方がよいと思いました。

また、2 ページで、自転車の利用について強みと弱みが記載されていますが、強みとして、平坦な地形であることや駐輪場が整備されているということがある一方で、不満要素として駐輪場が不足しているということが書かれており、表現の齟齬があると思います。この点については、強みと弱みとをきちんと分けて書いた方がよいかと思いました。

さらに、6 ページの「今後の調査で把握すべきこと」について、ここで挙げられている点に加えて、今後整備される市の公共施設の予定などをきちんと考慮していく必要があるかと思いました。例えば、児童発達センターが令和 6 年に開設予定と聞いていますが、こうした施設は子育て世代にとって非常に重要です。

最後に、8 ページの公共交通機関に対する調査のところ、路線バスの利用者アンケートの配布日時が 10 時から 16 時からとなっており、この時間帯だと、通勤・通学の方がアンケートの対象から漏れてしまうと思いますが、それで問題ないのか質問です。

○事務局

まず 1 点目ですが、ご指摘のとおり、市の北側については、中央線につながるバス路線が多く運行していますが、市の南側については、路線バスの運行本数は多くなく、ちゅうバスがカバーしており、30 分に 1 本の運行となっています。路線バス網が全体として充実していると捉えられるような表現は、修正したいと思います。

続いて 2 点目について、ご指摘を踏まえて、整理をいたします。

続いて 3 点目について、公共施設の整備状況を把握すべきというところは、おっしゃるとおりだと思います。ほかにも、都市計画道路など大きな道路の整備もありますので、市全域の公共施設等の整備の動きについて、まちづくりと連動するような形で、整理していく必要があると考えています。

最後に 4 点目について、今回の公共交通利用者アンケートは、特に買い物など日常の中で公共交通を利用している方の利用実態を把握することを目的にしており、通勤・通学の方を直接的にターゲットとは考えていないため、このような時間設定としています。

○会長

最後の公共交通利用者アンケートについては、ターゲット層が通勤・通学ではない

ことを明示していただきたいと思います。

また、計画を策定するにあたっては「未来の情報」もきちんと入れておくべきですので、公共施設等の整備予定など分かる範囲で入れていただくとよいと思います。

私から一点、今回の資料で、強みと弱みという形で整理をしていただいています。強み・弱みにも、内部的なものと外部的なもの2つあります。SWOT分析と言われますが、そのような視点でこの強みと弱みをもう少し深掘りすると、その後の戦略につながっていくと思います。せっかく強みと弱みを分けていただいたので、そこからどういうストーリーが描けるのかということ、次のステップとして考えていただくと、府中市に合った公共交通計画ができると思いますので、ご検討ください。

○委員

通学路の安全性や、横断歩道に接するバスの停留所があることなど、今いろいろと問題になっていることがあります。それについて調査は行わないのでしょうか。

○事務局

今回の調査のなかでは、通学路や個々のバス停留所の関係性などを調査する予定はありませんが、横断歩道にかかるなど危険なバスの停留所については、国が公表をしており、こうした問題への取組は個別に検討していかなければならないと考えています。

○会長

今の関連で、資料9ページの2-6に、「現地踏査」として交通結節点やバスの乗降所の調査がありますが、このなかで、ご指摘いただいたようなこともある程度把握できるのではないかとも思いましたが、いかがでしょうか。

○事務局

9ページにある「現地踏査」については、基本的には、主要な交通の結節点である鉄道駅周辺のバス乗り場などを対象に実施することを考えています。全てのバス停を調査するというところまでは対応が難しい状況です。

○会長

その上の2-5に「公共交通利用時の困りごと（バス待ち環境）」と書いてありますが、私としてはバスを待っている環境というのは非常に重要だと思っています。今のご意見を参考にしていただきながら、できる範囲内で、バスの乗降環境についても調査をしていただくと、より良いかと思しますので、ご検討いただければと思います。

○事務局

補足ですが、今回の調査の1つとして、市内の民生委員の方を対象としたアンケート調査を行っており、そのなかで日常の困りごととしてご回答いただいた内容については、対応を検討する必要があると考えています。

○副会長

先ほど、SWOT分析についてお話がありましたが、公共交通が置かれている外部的な弱みを意識しながら戦略を立てていくことになるかと思えます。例えば乗務員不足の問題など様々な要因がありますので、それらを踏まえて整理することは大変重要

と思います。

また、先ほど停留所の話が出ましたが、国の基準によりリストアップされた停留所について、個々の移設の協議など具体的な対応をしているところで、それは今後も実施していくのだと思います。一方、それだけでは済まない箇所や、移設が難しい停留所をどうするかという、次の段階に入っているのだと私は思っています。

これまではリストを作って1つ1つ潰していくという対応で、計画というよりは個々の対策の話でしたが、個々の対策で済まない箇所については、計画としてどうしていくべきかという話になります。しかし、乗降環境や安全性ばかりを考えると、「非常に使い勝手が悪いけれども、危険ではない」というような、利便性の悪いところに移設せざるを得ないようなことが起きてしまうわけです。ですので、地域と一緒に考えるとか、そのような枠組を作るといったような対応が必要になることも考えられ、それを計画の中に入れていくということもあり得ます。この点については課題整理のところでは何か検討していただければと思います。

もう一点、公共交通利用者アンケートは是非やっていただきたいのですが、事前にお見せいただいている個々の調査票のなかでは、「強み・弱み」を把握するとか、課題を把握するというところにうまくつながらないと思われる設問が一部見受けられました。つまり、利用者の感想は分かるけれども、今後の方向性に繋がる調査結果が出てこないのではないかと懸念がありますので、それらについては後ほど、事務局に個別にコメントしたいと思います。

○会長

岡村先生には、アンケート調査票を事前にチェックしていただいています。引き続きよろしくをお願いします。

停留所の話が出たので、ついでに一言だけ言わせていただくと、近い将来、自動運転が徐々に広がっていくと考えられますが、現在の乗降環境は、自動運転車両にとって劣悪な状態です。自動運転車両というのは、走るのはいいのですが、乗降のために安全に止まって人を乗せるということには非常に弱いのです。そういうことを考えると、今後自動運転社会を迎える上でも、少し先を見越してきちんとした乗降環境をつくっておくということは、重要かと思います。場合によっては、道路の拡幅などが必要になるなど、適切な乗降環境をつくることは簡単でないため、あらかじめ計画に位置付けておいていただいて、10年、20年かけてでもやるというようなプランニングをしていただくと、未来的かと思いました。

その他ご意見いかがでしょうか。今日は、交通事業者の方が何社か来られていますが、冒頭にもありましたとおり、公共交通の利用者は大きく減少していて、厳しい経営状況下で苦勞されていることかと思えます。このことに関して何かコメントあるいはご意見などがありますでしょうか。

○委員

バスの利用状況については、先ほどお話があったとおり、2～3割減ぐらいというのは全くそのとおりです。昨年度の決算では、黒字の路線は5分の1程度しかないなど、惨憺たる結果になっています。通常の企業であれば売れない商品はすぐなくなるのが世の常ですが、そのように考えると、ほとんどの路線がなくなってしまうような状況です。

ワクチンの接種なども進んでいるなかで、早くコロナ前の状況に戻ってほしいと思っていますが、概ねコロナ前の9割ぐらいまで戻らないと、今の路線網を維持できな

いというのが正直なところですが、我々事業者も、バスに乗っていただけるように頑張りたいと思っていますが、利用者の皆様には、ぜひバスを使っただきたいと思っています。

また、停留所の話がありましたので、事業者から少し具体的な話をさせていただきます。交通安全上の問題があると指摘を受けた停留所について、移設などを検討しましたが、結果として移設する場所がないため停留所がなくなってしまったり、なくなるバス停が多いためにルートを変えざるを得ないことがあり、その近くに住んでいる人は、500メートルぐらい離れた隣の道路まで出ていかないとバスを使えなくなってしまうというような事例がありました。もちろん安全には代えられませんが、新たな交通空白を生むという弊害が出てきているのもまた事実であることはお伝えしたいです。

もう1つは、資料中で「強み・弱み」を挙げていただいている、これから強みは伸ばして弱みは潰していくということになると思いますが、今よりたくさんバスを走らせるということは現実的ではなく、どこかを走らせようとすると、どこかを削るということになると思います。例えば、北部はバスが充実していて南部はそうでないということであれば、なぜそうなのかというところまで深掘りした上で今後の計画を立てないと、思わぬところに影響が出てしまって、こんなはずではなかったのにという事態を招いてしまうかと思っています。少し気になったので、意見として発言させていただきました。

○会長

実態をお話しいただき、ありがとうございます。事業者の方の悩みも含めて共有しながら、お互いに良い方向に向かうように議論できればと思います。

関係行政機関の方ということで、東京都、国土交通省、警視庁から来られていますが、何かありますか。

○委員

先ほど、交通安全上問題のある停留所の話が出たので、現在の取組を少しお話しいたします。

バスが停車した際に交差点にかかってしまうとか、交差点から5メートル以内にあるなど死角が生じる危険のある停留所を抽出し、改善をしていくという対策を取っています。先ほどバス事業者の方からもお話がありましたが、停留所の移設が難しいということもあり、他の地域では、土地の所有者さんから土地を提供していただいて、バスベイのようなものを作っていたという事例もあります。

バス交通は、地元住民の方、バス事業者、行政とで力を合わせて、より良いものをつくっていく必要があります。私どもとしても支援をさせていただきますので、引き続きご協力をお願いします。

○会長

おっしゃるとおり、利用者がいてのバス交通ですので、地域の中できちんと議論していただきながら、バスベイの例なども含めて、考えていただければと思います。

他にはよろしいでしょうか。それでは、アンケート調査を7月に実施するという事なので、これについては事務局に一任し、いただいたご意見をできるだけ反映した形で進めていただきたいと思います。

では、本日の議題について、異議はないということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○会長

続きまして、議事3「その他」について、事務局から、説明をお願いします。

○事務局

今後のスケジュールですが、部会については、9月頃の開催を予定しており、協議会については、10月頃の開催を予定しています。

また、今回いただいたご意見を踏まえて、アンケート調査結果などを分析したもののについて、次回の協議会でお示ししたいと考えていますので、よろしくお願いします。

○会長

全体をとおして、ご意見等はよろしいでしょうか。

○委員

本日は本当にありがとうございました。いろいろなご意見をいただきましたので、これらを参考にしながら次の資料につなげていきたいと思えますし、これから調査に入りますので、その結果も皆様にお示ししたうえで、またご議論をよろしく申し上げます。

○会長

先ほどあったように、部会で交通業者の皆様との具体的な話し合いが始まるということなので、引き続きよろしくお願いします。

また、議事のなかでもありましたが、公共交通の利用実態を把握するために、交通事業者様がお持ちのデータがどうしても必要になってきます。コロナ禍における実態調査の結果に補正をかける意味でも、通常時の実績も含めたデータ提供にご協力をいただき、正しいデータで検討したいと思えますので、ぜひよろしくお願いします。

それでは、以上をもちまして本日の府中市地域公共交通協議会を閉会させていただきます。ご協力ありがとうございました。

以 上